

## 第47回市民ふれあいトーク＝地域の絆を深めるまちづくり＝

日時 平成25年8月22日 18:30～20:00

場所 まびいきいきプラザ

### 要約版

#### 《市長》

こんばんは。お暑うございます。夕方ちょっと涼しいような感じもいたしますが、毎日暑い日が続きまして大変でございますけれど、熱中症にならないように気をつけていらっしゃいますでしょうか。今日は久しぶりに真備でのふれあいトーク、確か2年前平成23年に公民館で開催をさせていただいたと思います。今日は「地域の絆を深めるまちづくり」という題材でふれあいトークを行なっていきたいと思います。最初は私の方から10分間お話をさせていただき、皆様の方から今日のテーマについて、または倉敷市全般が活性化するためには、もうちょっとこういうふうにしなればいけないんじゃないかとか、そういうことを是非ご意見を頂きたいと思っております。

ちょっと話がずれるんですけど、先日神戸の大震災の後に神戸市がまとめをされました大震災後の反省といいますか、状況の分を見ておりました。その時地震が発生して、当然家屋が随分倒れたりして、下敷きになられている方、また火事が起こったりということになりました。下敷きになった方々が24時間以内に救出されました。その時警察とか、消防とか、自衛隊とかが救出した方は、全体の救出された方の2割だそうでした。残り8割の方は地域の近所の方とか皆さんが、確かこの辺りに住んでいたはずだと、それから声が聞こえるということで、声を掛けたりして、皆で瓦礫と一緒に撤去して中から怪我した方を、下敷きになった方を引きずり出して助けられたと書いてありました。本当にその割合もそうですけれど、その後に書いてあったのが、家が倒れたので皆さんが引越したくないといけない。その時に引越しをされて、どこに住むかというコミュニティを形成したり、集合住宅に入った時に、元の同じ地域の人達と一緒に住みたい。なるべくそれが叶えられるようにしたそうですが、それが地域単位でうまくいった所は非常にその後、高齢になっても、一人ぼっちで家で亡くなるとか、そういうことが非常に少ない。でもバラバラになって、住むようになった方では、そういう事例が出ている。そういうことが書いてありました。これはもう10何年経っているわけですけど、私たちの直ぐ近くで起こったことでもあります。

また、9月号の広報紙にのっていますが、本市がこれまで支援をしてきました東北の東日本大震災の市町村の、市だけですけれど、市だけでも支援をしております1つの県、12の市、4つの町ということで、17個の市町村を支援してきております。現在でも、3つの福島県と福島県の南相馬市、宮城県の塩竈市に、向こうで求められております技術職の職員を派遣してございまして、向こうで公民館の再建に当たってもらったり、それから堤防の再建に当たってもらったり、高校の建て直しに当たってもらったりということをやっております。それでこの前7月に、その場所のそれぞれの所を訪問したんですけど、本当に大変感謝をされておりました。何故ならば、例えば宮城県塩竈市は全体で建築職の職員が3人しかいないと。うちは勿論何十人もおります。3人しかいない、そこへ倉敷市から1人派遣をしているわけです。塩竈市全体の建築の予算の4分の1は、うちの職員さんが担当してやっているということで、当然のことながら、うちの市役所からも第1

級の職員さんを出しています。市によってはそれ用に雇って出している所もあるようですが、倉敷市は正規職員に行ってもらい頑張っており凄く感謝されており、復興の役に立っています。塩竈や南相馬の職員さんが言われたのは、こうやって遠いけど倉敷市から来てもらっている、それが倉敷市との絆というか、日本全体との絆を自分が確かめることが出来て、「頑張らんといけん」ということを毎日思う、その原動力になっていると言われるんです。勿論皆、支援をしてくださったり、義援金をしてくださったりします。それも重要ですけど、こうやって凄く遠くから来てくれて自分の仕事と同じことをして、南相馬市の復興のために。自分たちは全然忘れられているんじゃないんだということで、自分たちの方も頑張らんといけんということを、物凄く言われておりました。だから地域だけじゃなくて、勿論地域もそうですが、人と繋がっているということがどれだけ大きな原動力になっているのかということ、私の訪問でも非常に思ったんです。

今日のテーマ「地域の絆を深めるまちづくり」これをテーマにさせていただきましたのは、倉敷市でも色んな地域があります。若い人が多い地域、若しくは転勤族の人が多い地域、若しくは昔からの人が多く住んでいらっしゃる地域、色んな地域があるんですが、その中で非常に課題が生まれてきていまして、近所の人とあまり付き合いが少ないとか、コミュニティ活動があまり盛んにできない。そういうことを言われる方が結構多くいらっしゃる。そのことについて、これは何が書いてあるかといいますと、倉敷市地域福祉計画というものを今、倉敷市が作っております。この計画というのが何かといいますと、例えば倉敷市障がい福祉計画とか、例えば倉敷市の高齢者福祉計画とか、色んな計画があるんですけど、そういう計画を横断的に見て何が今後の倉敷市の地域福祉に必要なかということ、これをこれから検討しようということで、今市役所で検討しています。その時に、倉敷市内の約3000人の方にアンケートをお願いした結果です。今年の1月にお願いをしました。質問の内容は、「貴方の住んでいる地域には特にどういう課題や問題があると感じていますか。」ということで答えてもらいました。一番多かったのは、「地域のまとまりや助け合いが少ない」というもので、35%。2番目に多かったのが、「多くの世代の交流、3世代とか、世代間の交流とか付き合いが少ない」ということ。3番目に「まちづくり協議会とか、地域の自治会とか、役員の方の後継者の担い手の方が少ないので困っている」です。ちなみに4番目は「災害の時の避難体制について、どういふふうにしたらいいのかということ、今後非常にやらんといかんと思っている」そういう答えをこのアンケートの結果としていただきました。それから実は、昨年倉敷市内のまちづくり推進協議会、またコミュニティ協議会のそれぞれの代表者の方に、アンケートをお願いしました。その時に「今、力を入れていること、またこれからの取組みでやらんといかんと思っていること、また課題と思っていることは何ですか」というふうに聞きました。今力を入れていることで一番多かったのは、「3世代交流について」それから「ふれあいの場づくり」。これからの取組をしていけないといけないと思っていることは、「防災への対策」。課題となっていることは、「若い人の参加が少ない」「リーダーの後継者の人が不足している」こういう回答が返ってきました。今のこっちの市民の皆さんにアンケートをお願いしたのとはほぼ近いんじゃないかと思います。今日、真備地区、また船穂地区の皆さんが多く来てくださっております。特に私が地域の絆を深めるまちづくりで、どうしてもこの真備で行いたいと思っておりましたのは、この真備地区は全地域まちづくり推進協議会を作ってください、非常に活動が活発であると思っております。自分たちの中で「こういうところに特に力を入れてやっ

ている」「これをやったらうまくいった」、他の地域に「こうやったらいいのに」など教えていただき、地域福祉計画とか市民活動推進に活かしていきたいと思っております。市内で一番進んだ地域の皆さんから、お知恵を拝借できればという気持ちで参っております。真備地区の方だけじゃなく、参加をいただいておりますので、自分の所はこうだとか、もっとこういうことを全般的にせんと、とか教えていただければと思っております。

#### 《参加者 A さん》

私が中学校卒業したのは昭和31年、終戦後11年です。勉強はできません、私の何が宝物か、勉強ができなくても校則だけは勉強しとんです。約束事の勉強。したらいいんこと、それだけが宝物。私が4年前から頑張ってます50円で作った作品を。地域のために地域の絆をつなぐ。〈実演：廃材など（発泡スチロールや布切れ）で作った桃太郎〉

#### 《市長》

こういうのを作られて、幼稚園、保育園、小学校で発表されていると。桃太郎を選んでるのは地域の物語をしっかりと子供たちに受け継いでもらいたいということですかね。熱意良く分かりました。これを50円で作ったと。リサイクルが重要ということと、桃太郎を題材にし、子供たちに教えていくことが郷土を大切にすることに繋がる。よく分かりました。

#### 《参加者 B さん》

高梁川が一級河川で倉敷市にとって大事な川で、中に住んでいる魚というのは、とても財産で貴重なものですが、子供の頃は鮎が遡上して自然に上がってきて、沢山で足の踏み場がないくらい、つま先で立って歩かないと行けないくらいいた。以前は天皇に献上していたくらい良い鮎が獲れていた。60年から80年代には。とても沢山いたのが、いなくなったというのは色々原因があるでしょうけれど、色々な参考にして、魚道を作ってはいるんですが、肝心な場所で出来上がっていないというために、貴重な鮎とか鰻、蟹にしても上がって来られない。子供たちとかよその県の人達が来て、鮎釣り大会とか、色んなことをやってたんですが、全く釣り人が見えない。市内の人も県内の人も楽しみがない。ということになっていまして、沢山ネックがあるんじゃないかとなくて、話を聞いて僕が見た範囲では、酒津の所に広い川原沿いですが、そこの一箇所を自然の石でなだらかに、魚が上がるようにつけてやれば、昔のような川がとりあえずは戻りやすくなるということです。実際は15cmぐらいの鮎が3万匹ぐらいの卵を抱えているんです。それが産卵して降りて行ったのが、上がって来れば、沢山のまた踏み場がないくらい、10年後にはなれば良いなということ。希望を持っている人がいるんですが、どういうふうにしたらいいのか分からない、川の管理も1ページくらい色々な権利があって、誰しものが通常は出せないんで、どこかが音頭をとることをやってもらいたいと思って。上がってこれるような魚道を作ってあげると、メンテナンス費で、後は永年ずっと上がって来るので触らなくて良い状況になると思います。

#### 《市長》

国土交通省と、良く相談したいと思えます。今言われた鮎、魚のことですね。地域の中で以前は、魚をみんなで獲って一緒に遊んだとか、それから地域の方に魚を獲りに来ている人が沢山いて、ふれあいが生まれたということ。今は少なくなっているかと思えます。市だけ

で出来ることではないと思いますが、良く相談していきたいと思います。

#### 《参加者 C さん》

今年4月からいきいきサロンを立ち上げました。色んな行事をしたいですけど、情報はどのように取り入れたらいいか、もう一つ、高齢者の方が少しでも運動が出来るようなものを市の方で貸し出しみたいなものがあるのかどうか、輪投げとか、部屋の中でそういうものがあるかどうか、教えてほしいと思います。真備町にどのくらいいきいきサロンが立ち上げているのか、交流して色々話を聞きたい。そういう情報の場所があるのかどうか私も立ち上げて間がないので、そういうものを取り入れて輪を大きくしていきたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

#### 《市長》

ありがとうございました。たぶんいきいきサロン、ふれあいサロンのことじゃあないかと思います。非常に重要なことを言っておきまして、ふれあいサロン、いきいきサロン、地域によって呼び方が違うんですけど、地域の中で色んな参加の仕方があると思います。真備で言えば、まちづくり推進協議会の行事とか、もっと小さい所で言えば、倉敷では町内会の行事とか、小学校の行事とか色々あると思います。市で言ったら公民館の行事とか、ふれあいサロン、地域の中で、今言ったものは団体が主催をしていらっしゃる、若しくはこれまでである、若しくは学校が主催ということですが、今言われたのは地域の中で何人か、5人か10人くらいでも地域の中で、家の中ばかりにいる方がいらっしゃいますので、その方達に寄って来て頂いて、集会所とかに。定期的と一緒にお茶でも飲みましようとか、そういうことだと思います。市の方からも本当に些少ですけど、補助金があるんですが、今言われたもので私が思いましたのは、このふれあいサロンは実は倉敷市内では、今確か130くらいされておりまして、真備地区では確か20幾つかくらいされていると思います。社会福祉協議会の関係の方がされてたり、地域の老人会の方がされてたりとか、若しくはそれに全然関係なくて皆で寄り合っていてされている方もあります。その時機材の貸し出しがないのか、基本的には自分で準備をしていただくんですが、例えば、地域の皆さんが自分でやろうということになった時に、じゃあ例えば防災のこととか、例えば健康の運動のこととか、あんまり何をやればいいのか分からないということになった時に、参考にというか頼りにしていただきたいのが、健康のことだったら健康福祉プラザ。ここでもやっているかと思いますが、健康福祉プラザの市でやっている健康教室とかの出前講座をこっちでやってもらえませんか、それは勿論無料です。市の方にこれも今非常に増えてきておりまして、健康のことなのか、防災のことなのか、観光の活動をしたいたいが自分たちは何ができますかとか、そういうことを市の方にまちづくり団体とか、自分たちが作ったグループから聞いてこられることがあるんです。市の職員に来てもらって、話をしてもらいたい。これは市の出前講座といいます。この数が今非常に増えていきますので、こういうのを活用していただけたらありがたいと思っております。

#### 《参加者 C さん》

この間、出前講座で認知症のことを勉強しました。でも難しいことばかりで、皆さん面白くないのでなかなか集まらない。楽しくゲームをするようなことをしたり、遊びを入

れたりしないと、長続きしないと思ひましてちょっと聞かしてもらったんです。出前講座を見たら、結構凄く勉強になるんですけど難しいです。高齢者にとって話を聞くのが、自分にとって大事なことというのは、少なかったんです。もうちょっと遊びがあったような講座もしてほしいなと思ひます。

#### 《市長》

今のお話を伺って、市の講座は内容が難しいということが良くわかりました。難しいことを紙に書いたのをそのまま読むのは簡単だと思ひますが、地域の皆さんに分かりやすいように説明をできるようにしないといけないなと非常に思ひました。ありがとうございました。もっと工夫していきたくと思ひます。

#### 《参加者Dさん》

中学生の生徒に良く暴言をはかれることがある。死ねとかくたばれとか、言われたことがあるんですが、学校ではどういう教育をされているのかお伺ひしたくて。そういう事を学校で言えと教えとるんか聞きたいと思ひます。

#### 《市長》

ありがとうございました。中学生だけではないかと思ひますが。倉敷市内の子供たちが、いじめのこととかもそうだと思ひます。いじめとか暴力、今岡山県が全国の中でも非常に順番が悪いような状況になっています。何とかしないといけないと、県も力を入れていくと聞いておりますし、倉敷市で言えば、井上教育長という方に4月からなり、特にいじめ、不登校、暴力にまず力を入れると。教育の方にも力を入れますけれども、他の人の迷惑になるようなことをしてはいかんということから教えんといかんと言われております。今の中学生が、非常に態度が悪いということについては申し訳ないと思ひます。直ぐに直ると私が約束できるわけではないですが、とにかく勉強ができることも大切ですけども、人として他の人を思いやる心を教えるようにしたいと思ひます。先ほど伺った具体的なことは、また聞いてみたいと思ひます。そんなことがないようにしないといけないと思ひます。

#### 《参加者Eさん》

真備陵南高校という地元の高校のものです。うちの生徒会長も真備東中出身ですけど、今日は来ておりませんので、生徒会がしていることを少しお伝えしながら、話をさせていただきますと思ひます。

さっきのような生徒を作らないために私たちも頑張っているところではあるんですが、本当に、若者たちをどうやって地域に馴染ませていくか、引き込んでいくかというのは、私たちの役目でもあるなと思っております。小学校・中学校は大切だという最初のお話もありましたが、うちは定時制の学校ですので、小中でうまく学校へなじめなかったとか、成功体験をうまく積めなかった生徒達がたくさんやって来ます。そういう子達にどうやって地域のことを教えていくか。将来、やはり地域で過ごしていく子ども達だと思っておりますので、地域の中に引き込んでいくことをやっているつもりでいます。そこにテオリの花瓶がという話があったんですが、これも真備の方でいらっしゃるので、ちょうど去年、社長さんに来ていただきまして、真備から世界に発信しているんだと、そういう企業もあ

るんだと、地域に自信を持たすという観点で、講演をPTAの協力でしました。今年は、吉備真備ですね、駅名でしか生徒たちは知らないんですけど、どんな人なのかを少し学ぼうということで、10月1日に講演をしていただく段取りをしております。

#### 《市長》

ちなみに、誰が講演されるんですか？

#### 《参加者Eさん》

ボランティアガイドの方をお願いして、来ていただくようにしています。知ることだけでなく、自分たちで動いて自信を持っていくという活動も必要だと思ってるんです。社会福祉施設の訪問とか幼稚園の訪問もしてるんですが、駅周辺に地域のまちづくり推進協議会の方と一緒に清掃活動をしたりしております。本当に声をかけるとすぐ来ていただいて、生徒たちも一緒になって、自分たちだけでやって自己満足になるのではなく、地域の方と一緒にするというのは、一声掛けていただくと、今まで自信を持っていなかった生徒たちも、自信を持って地域に馴染んでいくんだろうと思って、大変プラスになっていくなと思っています。

もうすぐ南側には大きな支援学校が出来ることも聞いております。一緒になってそういう活動もしていきたいんですけど、なかなか交通規制が。大きな道の周りに汚いところ、ゴミが落ちているのもあるんですけど、拾い切れなかったりもしております。そういう地域と一緒に活動させていただく時に、少し行政の方でもご協力していただいて、ちょっと車を止めていただくとか、そういうことも協力していただければ、もっといい活動ができるかなあと思っております。よろしく願いいたします。

#### 《市長》

ありがとうございました。陵南高校の皆さんは、箭田の地域のまちづくり推進協議会の皆さんとよく活動されているということですね。私も思うんですが、子どもたちがなかなか地域にきっかけが、自分たちの方からは非常に取りにくいということがあるんじゃないかと思います。地域の方から小学校、中学校、そして幼稚園、保育園にアプローチといいますか、声をかけてもらいたいということを先生たちは言われます。それによってきっかけが出来て。さっきの高校は自分の方から清掃活動をしてくださったんだと思うんですけど、学校の方からは、どこもコンタクトしたらいいか分からないということが、よく言われるので、地域の方から声を掛けていただきたいと思います。特に高校で今年の4月から、確か1週間でしたか、3年間の間にまる7日間ボランティア活動をしなければならないとなったんです、実は。これまで何年間か、玉島とかいくつかの高校でモデル校でボランティア活動のことをされていたんです。それが非常に人気がいいということで、県の教育委員会も授業の中の一環に取り入れようということで、3年間の間に7日間、ボランティア活動を地域の人と必ずするように、ということが今年から始まりました。学校の方は多分、どういうことが出来るのかとか、せっかくやるんだったら地元の役に立ちたいので、役に立つようなことがしたいと、思ってるんじゃないと思うので、地域の方からの声かけを、お願いしたいと思っております。子どもたちにも頑張ってもらいたいと思います。

### 《参加者 F さん》

吉備真備駅前で老人保健施設をやっています、ライフタウンまびの者です。陵南高校はもう何年も前から、七夕とクリスマスにボランティアで、生徒さんに来ていただいています。農業もやっておられるので、プランターにお花を作ったり、冬はお正月のものを作って持ってきていただいて、とても高齢者の方が喜んでおられるんです。

まちづくりとの関連で言えば、箭田小学校区のまちづくりの方、とても活動的で、もう10年以上前から吉備真備駅前、毎年8月の最後の土曜日に、今年は学校の始業式の関係で24日に、多分市長さんも何年か前、来ていただいたと思いますが、駅前を借りて大規模な祭りをやっております。でもあの裏方さんとか出すお店は、全て町民とライフタウンまびの職員の手作りで、ライフタウンまびとまちづくりがコラボで。ライフタウンまびの車椅子の方も、ボランティアの皆さんのご支援で、普通の祭りに出ているということで。実行委員会の団体から、お互いに協力し合って祭りを作ってる。ボランティアということで、高齢の70代・80代の方が提灯をつるしたり、小学校や公民館から椅子や机を運んだりとか、結構力仕事をしています、暑い中を。そういう中、高校生の方も、少しお手伝いしていただければ助かるんじゃないかなあと思いました。地域的に非常に近いので、箭田のまちづくりの中で、活動もお互いに協力し合っていったらいいんじゃないかなあと思いました。

### 《市長》

箭田のまちづくり推進協議会の方はいらっしゃるでしょうか？何か発表がありましたら。また、今度支援学校の方も来年4月から出来まして、多くの方がいらっしゃると思いますので、ぜひまた協力して、お願いできればと思っております。

### 《参加者 G さん》

箭田の者です。今、陵南高校の先生、それから老健の方、お褒めの言葉をたくさん、恐縮の次第でございます。一つ例を挙げますと、竹&ふれあい祭り、この24日に行われますが、今年は若い方に実行委員会に入っていていただいて、その方たちを中心に進めてきた。一生懸命やっていて、いい祭りになるんじゃないかなと、今期待しているんです。これが、後継者の育成にも繋がってくると私は思っております、非常に期待をしております。後継者がなかなか育たないという中で、一つの方法ではないかなという感じをもっております。

それから後、陵南高等学校と中学校、ボランティアに参加していただいております。まちづくりの方からも声をかけますが、あまり突っ込んだ声かけは出来ませんので、何か一緒に出来ることがありましたら、ご連絡ください、という形で進めて参っております。

それが一つの、お互い子どもたちや学生とのコミュニケーションの場にも繋がってくるということで、今一生懸命に進めております。

### 《参加者 H さん》

粒江から来ました。参加させていただきましてありがとうございます。私は今30歳ですけど、全体を見渡すと、かなり人生の先輩方がたくさんいらっしゃって、自分の親、もしくはそれ以上の方が多いかと、ちょっと恐縮しています。

先ほど市長がアンケート調査結果の説明をしてくださいましたが、その中で私が見させていただいて感じたのは、子育て世代、特に働き盛りの30代・40代の方の意見がそもそも入っている割合が少ないんじゃないかなと、強く感じました。これは、やはり自分も含めて、そういったところまで日々の生活の中で余裕がないと。どちらかというと、あそこの赤色になっているところの意見というのは、やはり僕らよりも上の年齢層の方の意見のほうが多いかなと感じました。倉敷の未来ということで、やはりこれから先、長いスパンで考えた時に、僕たちのような世代の人間が頑張っていけないといけないと思うんですけど、その中で今、意見としては少数派だと思うんですけど、そういったところにも光を当てていただいて、ヒアリングとかをしていただきたいなと思います。

私は今ボランティアで地域の課題を洗い出すというNPO法人で活動を行っています。その中で、どちらの地域へ行っても、世代間の交流が非常に少ないと。そこへ出向いてお話を聞いていくと、じゃあお父さんの息子さんとかは今どちらにいらっしゃるんですかと聞くと、大体地元を離れているというのがほとんどです。そういう自分も、県内ではあるんですけど、自分の家をでて、仕事の関係で倉敷の方に来ています。ただ眼差しを向けるということは出来ると思いますので、直接足を運ぶだけではなく、今日みたいな会のあるところで、せめて3分の1は僕と同じ世代の方がいる会にさせていただけるように、スケジュールのほうも、時間的にも仕事が終わってから来るというのが厳しい時間帯でありますので。

#### 《市長》

土日とかですね。

#### 《参加者Hさん》

そうですね。そういったスケジュールのところも加味していただいて、こういう活動を続けていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

#### 《市長》

ありがとうございました。多分今日参加されてる方の中で、一番若い。このアンケートは、最初申し上げたとおり2,000人に出したんですが、出したのは年代で区切ってるというのではなくて、2,000人に出して大体半分くらい返事が返ってきたんです。出す時は無作為抽出にやっていますので、同じなんですけど、返事が返ってくるのが少ないと思うんです、若い人が。かろうじて6番目くらいに、子どもの遊び場の環境がまだまだだ、というのがありますけど、ほかは後継者不足とかそういうことが多くて、どちらかというと、若い人よりも既に活動をされてる方のほうが、となっているんじゃないかと思います。市ももっとPRというか、色んな世代の方が参加してくださるというのが大切だと思いますし、かつ世代間の交流が少ないけど現実問題はなかなか難しい状況もあるので、それをどうすればいいのかなと思って。先ほどの方は、若い方に入ってもらおうということですけど、ちなみにどうやって入ってもらったんでしょうか？

#### 《参加者Gさん》

最近若い人にたくさん入ってきていただけていますが、一つの方法としまして、早速今月はじめたんですが、若い人に入ってほしいということで、ボランティアを募集、というこ

とで募集要項を書いて配布させていただきました。これは小学校を窓口にしまして。それで小学校の方でまとめていただき、そのボランティアに参加したいという方の中から、それぞれ得意とするものがある、例えば子ども支援の事業に私はこういうことをやりたい、それをうまく分けさせていいただいて、活用させていただこうと。そうして若い方をこれから入れていって、町をもっと明るくしていきたいなど今進めています。

### 《市長》

今、箭田のまちづくり推進協議会のお話だったんですけど、他のまちづくり協議会の皆さん、もしくはコミュニティ協議会の皆さんで、こういうところで、若い人の参加に成功した、うまく行っているという所がありますでしょうか。今の方の、小学校の連絡便だったんですけど、子ども便を持って帰ったら、子どもが興味を示したら、お父さんお母さんも参加してみようかとなる、すごくいい例だと思ったんです。小学校とか学校の取り組みにもよると思いますので、一概に全部できるかどうか分かりません。

### 《参加者Iさん》

岡田のまちづくりとしては年間を通して、いろいろ行事をさせていただいております。まず4月に総会がありましたら、早速6月にはしょうぶ祭りをやっております。このしょうぶ祭りにも小学校6年生が常に参加してくれておりますし、幼稚園・小学校の生徒も作品を作ってくれたりして、しょうぶ祭りを盛り上げてくださっております。それから5月には運動会があります。これも地区の運動会と兼ねて、小学校の運動会に参加させていただいております。8月には夏祭りをしております。今年も予想をはるかに上回る700人の方々が、10日の夏祭りに参加してくださって、コーヒーブレイクのコーヒーが足りないんじゃないかと心配したほどの方が来てくださってる。これにも中学生の方が結構ボランティアとして来てくださっております。

先般私たちのまちづくりは、幼稚園・小学校・中学校の校長・教頭・教務の先生方と懇談会を持たせていいただいて、中学校ではボランティアに参加するように仰っておられたんで、これからはしっかりとボランティアに参加していただきたいと思っております。

一番楽しい秋祭りでは、千歳楽を私たちのまちづくりが管理させていただいております。今年为天領祭りには、真備岡田の千歳楽も一緒に来て盛り上げてくれということで、一緒に天領祭りに出させていただいて、盛り上げさせていただいております。水島の方から、うちの地域では千歳楽を出せなくなってしまった、出すような人がいなくなったから、もらってくれないかという話が出まして、先般譲り受けて参っております。それを今年の秋祭りには活用して、うちの千歳楽と、もらってきた千歳楽を合わせて、にぎやかに地域を盛り上げていきたいなと思っております。11月には、岡田が金田一の生まれた里ということで、金田一耕助のイベントを倉敷市と一緒に盛り上げております。こういった地域を盛り上げるイベントはいっぱいしておりますけれども、それぞれの地域でイベントはぎょうさんしているんですけど、今ひとつ私が寂しく思うのは、真備町全体が触れ合える行事が無くなった。昔の真備町時代には総運動会ということで、地域対抗のような運動会をしておりました。今は、それぞれの地域では皆さんが行事を一生懸命してるんですけど、倉敷市真備町全体が繋がれるような、顔が会えるような行事がほしいなというのが私の思いでございます。

## 《市長》

ありがとうございました。今言われたこと、非常に重要だと思います。幼稚園とか小学校とか中学校の先生たちと懇談会をされてるわけですよね。例えば倉敷地区とかではそれも出来てない。他の地区へいったら出来てないところも多いと思います。そういうことを定期的にしてゆくことによって、何が求められているのかということが出てくると思います。学校のほうも地域の方に参加してもらい、地域のおじいちゃんおばあちゃんから道徳を習うとか、昔話を習うということをしたんだけど、取っ掛かりが分からないという学校が、今非常に多いです。真備地区は非常にうまくいっていると思います。全体がないというのは、確かにそうかなと思いました。今すぐ、回答は難しいんですが、他の地域でも参考にしてもらえることだったと思います。

## 《参加者 J さん》

菌のまちづくりをやっています。皆さん、色々ないい意見を聞かせていただき、ありがとうございます。私たちのまちづくりは、7班に分かれて、各班で企画立案してやってるんですけど、まちづくりの我々の考え方は、子どもたちは宝物だという前提に立って進めております。じゃあ何をするか、ということになると、大人が子どもたちを見守らないといけないということで、叱ることも大切だということでやっています。各班かなり体験学習を取組んで、子供たちだけでなく、子どもと親とまちづくり推進協議会と一緒にあって、色々な行事をして、その中で子どもたちを見て、悪いところを直すということも大切だと考えて。例えば、田植えから稲刈りまでして終わったら、餅作りまでして、餅つきをして子どもたちに喜んでもらう。喜びとつらい思い、そういうのも体験の一つなんで、そういうことに取組んでおります。ある班によると、この間も100人ほど子どもたちを連れて科学センターに、体験学習で行って、子どもたち同士で団体の生活、それを一人ひとりの考え方でやるとバラバラになっちゃうんで、こういうときはみんな一緒に行動する、その団体生活の大切さというものを教えるためにもそういう取り組みをやっております。

あと後継者の問題ですけど、PTAと夏祭りとか、防犯・防災大会とか、体育祭など行事をやる中で、体育祭をやると、若い人たちが積極的に来てくれます。そういう人たちにまちづくりに参加を呼びかけて、後継者を作っていくという考え方でやっています。最近も若い人たちがかなり入ってきております。PTAの役員が終わってもまちづくりの方に残ってくださいという形で若い人たちを積極的に取り入れるという体制をとっております。

## 《市長》

さっき言われた体験学習というのは、夏休みの課外授業だったり、学校の社会学習授業だったりとか、両方ともあるんですか？

## 《参加者 J さん》

両方です。田植えからやるのは学校の行事と一緒に取り入れて、授業の中でやっている。科学センターに行った時は、夏休みにそういう計画を立ててやらないと、100人も一緒に授業時間には出られないんで、夏休みとかそういう休みの時を利用してやっています。それで市長にお願いしたいんですけど、我々まちづくりを一生懸命頑張ってるんですけど、先立つものがないものですから、体験学習に連れて行くにもバス代とか大変な費用がかか

るので、補助を色々考えていただければ我々はもっともっと頑張れるんじゃないかと思えますので、よろしくをお願いします。

#### 《市長》

ありがとうございました。平成25年度から、コミュニティ、まちづくりへの補助の仕組みを前と少し変えたんです。皆さんから、随分使いにくいという話をいただいてたんで。

#### 《参加者Jさん》

今年度から、その件で非常にやりやすくなりました。プールが出来るものですから、ある班では費用があまりかからない、じゃあこっちに振ってやろうかというふうに、プールが出来ますので、非常に助かっております。どうもありがとうございます。

#### 《市長》

改良していける点があればとは思っております。またご意見ををお願いします。使いやすくなったみたいでよかったです。ありがとうございました。

#### 《参加者Kさん》

後継者の件に絞って。学校ではご存知だと思いますけど、学校評議会という組織がございますよね。私の経験ですけども、小学校のキーパーソンは教頭です、教頭を核にして、地域の連合町内会長さんとか、いろんな立場の方が今、評議員という形で学校を評価するという部分はあるんですけども、知恵を出すキーパーソンでもある評議員が、ただ評価するだけではなくて、学校と地域の連携というような形でアイデアをいただいてやりました。私の居住地の場合は中学校が主体になって、廃品回収を年1回やりました。土曜日から日曜日ですけど、当然職員もなるべく全員出てきて、車も地元の軽トラとかいう形で、町内会の方、保護者、実際集めて回るのは中学生。とにかく中学生が主体で動いて、それを教職員と地域の大人が車を出したり、ちょっと大きな仕事はサポートする形で、中学生を巻き込んでやりました。

#### 《市長》

その、中学生とかが後継者だと。

#### 《参加者Kさん》

そうです、地域の大人と触れ合ってなじんでいくというところです。

#### 《市長》

学校評議会の方で、さっき手を挙げてくださった方、評議会について、何かもっとこうした方がいいとかありますか。もしあったら、教育委員会に言います。

#### 《参加者Lさん》

船穂町柳井原地区から来させていただきました。柳井原小学校といいますと、倉敷市でも一番小規模小学校です。今20名います。評議会委員のことなんですが、実際に学校の

活動項目をあげて点数をつけることでしとられると思うんですけども、なかなか学校へのコミュニケーションがわからないので。評議員の方だと、むしろ保護者のほうがいいんじゃないかというのが私の感じです。2年くらいなっているんですが、実際に子どもと学校のことをよく知られているので、保護者の方がなったほうがいいのかと思っています。

#### 《市長》

保護者の方に積極的にということですね。学校規模によっても違うのかもしれませんが。

#### 《参加者Lさん》

小学校といいましても、今6年生が2名ですし、欠員の学年もありますし。何とか、柳井原地区も土地区画整理事業が今、完成間近なんですけれども。完成しますと、新しい方も来ていただけるのではないかと期待しております。よろしくお願いします。

#### 《市長》

しっかり頑張ります。先ほどの方も言われましたけれど、子どもは宝なんでね。私の政策の一番が「子育てするならくらしきで」ということで、子どもさんが増えてもらうようにしたいと思っています。今一番倉敷では何が問題かといいますと、保育園に入れない子どもさんが非常に多くなっています。岡山市は実はあんまり待機児童がいないというのは、あんまり子どもが増えてないみたいでして、待機児童が少ないけど、倉敷市はこの4月に待機児童が50人位でした。今年中に倉敷の街なかで、保育園を2つ新たに、90人×2つで180人新しく作るんです。なぜ50人の待機児童に90人のを2つ作るか、180人かといいますと、50人の待機児童の他に、もし保育園に入れたら自分は子どもを預けて働きたいという人が、あと300人くらいいらっしゃる。でするので、今は預けられないので、働けないという方が非常に多いということで、安部総理も女性の力を社会に使わんといかんとされていますし、保育園のオープンも国からも助成金を出してくれるように最近なっているので、今年90人の保育園を2つ、来年90人の保育園をあと3つ創ろうと思っています。合計で、90人の保育園×5つということで、450人分2年で増えます。大体倉敷地区の子どもさんの全体が入っている1割くらい、増えるようになりますんで、子どもさんとかお孫さんとかいらっしゃる方もおられると思うんですけど、なるべく働きやすいように、子どもさんを預けられやすいように。そして、そうすればきっと子どもをもっと。結構最近2人だったんだけど、もうひとり3人目を生みましたとか言うてくださる方が増えてきているように思いますので、子育ての支援をしっかり頑張りたいと思っています。

#### 《参加者Mさん》

有井のもので。先ほどサロンの話がありましたが、私もサロンをやっております。3年経ち、市からも補助金をいただいて順調に軌道に乗せることができているかなと思っていますんで、先ほどの方、この会が終わりましたら、是非私の所に来て、こういうふうになればいいですよということを少しお伝えできると思います。年に1度、市の福祉協議会の方と会長・副会長とお話し合いすることもあります。そういうことも含めお話しができると思います。ぜひ後ほどよろしくお願いします。

### 《参加者 N さん》

箭田の者です。高齢になると言いにくく、聞きにくいかもしれませんが。トークに参加できたことを幸せに思っております。真備町は吉備文化の発祥の地で、また吉備真備公の生誕の地として全国的に有名です。まきび公園、茶屋ができた時から、ずっと関わってきているんです。最近時間がありまして、よく行くんですけど、お客様が来られないんです。それが本当に寂しくて、地域の産物があり、竹工房があるということで、初めは大勢の方が来てくださっていた。それで組合を作って、組合の人がそこへ出品して、野菜なんかも地域の野菜を食べていただくということで、盛り上がっていたんですけど、最近は寂しいなと思うんです。今、組合員が話し合っただけで進めて行けばいいんですけど、高齢になったり、若い人は色々と忙しかったりして、できにくいんじゃないかなと思ひまして。それを市のほうで、指導いただければ、昔のイメージを取り戻すのではないかと、私はそれを願っております。あれだけの中国庭園と記念館は全国にないものですから、周辺の花も、中国の牡丹ということで一時はきれいに咲いていましたけど、今は手入れをしてくださる方が高齢になって、前のような姿がない。大勢の方が来られても、川に水が流れているのが、流れていなかったり、鯉がいるのがいなかったりして。やはりいっぺん来てお孫さんを連れて最近来られたら、全く違って失望して帰られる方もおられます。そういう点を市でご指導していただくことはできませんでしょうか。

### 《市長》

はい。できることはしっかりやりたいと思ひますし、真備様の関係で思っておりますのは、PRをもっとしないといけないと。例えば、倉敷駅の北側にアリオ倉敷、三井アウトレットとかで、順番にPRしようと思ひているんです。今年は瀬戸内海国立公園指定80周年ということで、結構児島の方のPRをしている。また順番に、吉備真備様とか玉島の備中の地域のこととかPRを、少しでも行ってもらえるように頑張りたいと思ひます。

### 《参加者 O さん》

私は玉島からお邪魔しました。東日本大震災応援団というものを立ち上げまして、震災と同時に支援物資を送り続けてきたんですが、この真備、船穂地区の方から多くのご協力をいただきました。この席を使わせていただき皆さんにお礼を申し上げたいと今日、参りました。こういう物資でつながったボランティアをしながら、絆っていうものは何だろうな思ったんです。思いやり、助け合い、励ましあい、支えあうということだと。これが倉敷の全体の中で、特によくできたなど。多くの方が毎回毎回、物資の提供をしていただいて、毎週水曜日にトラックで送り続けて、昨年の末まで毎週送ってきた状況です。倉敷は市民がいかに、そういう心を持った大勢の方がおられるということ、私は倉敷市として誇りだと思ひます。震災がある度にそういうことがおこるんですが、阪神大震災、先ほど市長がおっしゃったように、震災を受けた人を応援する。それから玉島・児島・水島地区が台風の高潮でつかったときの事、今回のような震災、災害がある度にみんながよしっ、みんなで支えあい、助け合わねばいけないというふうに気持ちが、その気持ちが時間がたつごとに忘れてくる、この忘れないためにどうしていくかという、それは行政であり、地域の住民であり、教育の場であるというふうに思っております。これはすべての皆さんが忘れないで、その気持ちが地域に根付くと、そのことが最終的には地域の発展につなが

っていくと、お互いが助け合うことができるし、絆ができるいうふうに思います。本当に自慢ができる倉敷だと思っております。今回の震災、今年に入っては、月に1回くらいしか送れない状況ですが、続けて支援していこうと思ってます。支援することによって、自分が幸せを感じるというふうに思っております。本当に皆さん、ありがとうございます。

#### 《市長》

ありがとうございました。玉島を始め、倉敷の市内の皆さんが物資や色んな。私ども市の職員もそうですけれど、現地に行っていることによって、倉敷は非常に、釜石とか大船渡とか大槌町、さっき我々が行きました塩釜とか、ああ松島やの宮城県の松島、こここの前、観光協定を結びました。うちが松島のガレキを全部撤去したということがきっかけで、非常に倉敷市は三陸では大変有名になっております。倉敷から来たというと、色々ボランティアの人が来てくれて、とすごく言うてくださるそうです。これからも、それぞれができることを続けていきたいなと思っています。

#### 《参加者Pさん》

せっかくの機会ですので、竹林音楽祭のご案内を皆さまに、チラシとして入れていただいておりますので、お話したい。最初、市民提案事業で始まって今、市の行事として取り扱っていただいております。本当にありがたく思います。6回目を迎え、10月13日に箭田の大塚古墳で竹林音楽祭をいたします。これも地域の絆を深める1つの、音楽を通じて、ライトアップして、家庭にも喜んでいただけるような音楽祭を続けておりますので、足を運んでいただいて、盛り上げていただきたいなと思います。特に竹オーケストラで真備町の楽器を作って演奏もありますので、足を運んでいただきたい。

もう1つ、商工会。私も商工会の一員で、商工まつりとか。全体的な祭りが無いということで誰かおっしゃていたんですけど、そういう場もあります。今日会長も来られてますし。商工まつりで地域の人がふれあうことも今後取り入れていただけたらと思います。

#### 《市長》

ありがとうございました。本当に今日は色んなアイデアをいただいたように思います。学校、教育委員会にお伝えすることができるものも多いと思います。吉備のまきび公園の事もできましたけれど、各地区も玉島とか児島が非常に有名になっているということで、今、児島が有名になっているのがジーンズのジーンズストリートになっています。非常に昔からの児島の歴史を古事記1300年ということで、そこから地域の歴史を紐解いて、繊維産業がなんで発達したのか、そこからジーンズにあって、なぜ今こうなっていたのかということ、全部繋げてPRをされております。児島の商工会議所の皆さんが児島の国立公園80周年というのを目指して作られました。そういうことを市としても使って、PRしやすいということもあったかと思えます。真備船穂商工会とも、相談をしまして、当地域はなんと言っても、吉備真備公を始めとする偉人がでられております。横溝正史さんも井上桂園先生もいらっしゃいます。色んな地域の偉人の方を核としたPR、地域まちづくり発信ということの力を入れていきたいと思っております。本当に皆さまから貴重なお話をいただきましてどうもありがとうございました。